

875A-1

一 日滿經濟共同委員會設置二國スル協定締結ノ件

一 遷信省官制中改正ノ件

極秘 昭和十一年七月三日 會議筆記 正

一 日滿經濟共同委員會設置二
議院會議筆記 一 國スル協定締結ノ件

一 遷信省官制中改正ノ件

昭和十一年七月三日(水曜日)午前十時十五分開議

聖上臨御

備員

UR

一議

平沼副議長

CO

ROOM

361

大臣

岡田内閣總理大臣 四番

後藤内務大臣 六番

大角海軍大臣 七番

廣田外務大臣 八番

林陸軍大臣 九番

床次逓信大臣 十番

町田商工大臣 十二番

山崎農林大臣 十三番

兒玉拓務大臣 十六番

EXHIBIT NO. 850

875A-2

願問官

久保田願問官	十九番
富井願問官	二十番
黒田願問官	廿二番
櫻井願問官	廿三番
荒井願問官	廿四番
河合願問官	廿五番
鈴木 <small>(貳太)</small> 願問官	廿七番
石井願問官	廿八番
有馬願問官	廿九番
原願問官	三十番
窪田願問官	卅一番
元田願問官	卅二番
鈴木 <small>(莊)</small> 願問官	卅三番
石塚願問官	卅四番
坂本願問官	卅五番
石渡願問官	卅六番
清水願問官	卅七番
藤澤願問官	卅八番
林願問官	卅九番
	四十番

閑席員

皇族

雍仁親王
宣仁親王
載仁親王

一
二
三

875A-3

大臣

高橋大藏大臣 五番
小原司宏大臣 十一番
松田文部大臣 十四番
内田鐵道大臣 十五番

顧問官

金子顧問官 十八番
石黒顧問官 廿一番
石原顧問官 廿六番
栗野顧問官 廿二番

委員

金森法制局長官
樋口法制局參事官
以上各件二付
川越對滿事務局次長
董光外務次官
栗山外務省佐理局長
桑島外務省東亞局長
小林外務省記官
柳井外務省記官
大久保外務事務官
永田陸工省江務局長
平井陸軍一等主計

以上日清經濟共同委員會設置二
國スル協定締結ノ件二付

875A-4

進藤遞信省電務局長

清水遞信省電氣局長

片岡遞信省航空局長

葛川遞信省記官

以上遞信省官制中改正ノ件二付

報告員

荒井審査委員長

日清經濟共同委員会設置ニ關

スル協定締結ノ件ニ付

村上書記官長

遞信省官制中改正ノ件ニ付

書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長（一木）之ヨリ會議ヲ開ク先ツ

日清經濟共同委員会設置ニ關スル協定締結

ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ハ之ヲ省略シ
テ直ニ審査委員会ノ報告ヲ求ム

報告員（荒井）今回御諮詢ノ日清經濟共同委員会
設置ニ關スル協定締結ノ件ニ付不宣審査員ヲ
命ぜラレ本月二十七日委員会ヲ開キ國務大臣及
其關係書官ノ聲明ヲ聽取シ以テ之ガ審覈ヲ遂ゲタリ

875A-4

進藤遞信省電局長

熊本遞信省電氣局長

片岡遞信省航空局長

喜川遞信省記官

以上遞信省官制中改正ノ件二付

報告員

荒井審査委員長

日滿經濟共同委員会設置ニ關

スル協定締結ノ件ニ付

村上書記官長

遞信省官制中改正ノ件ニ付

書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長（一木）之ヨリ會議ヲ開ク先ツ

日滿經濟共同委員会設置ニ關スル協定締結

ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ハ之ヲ省略シ
テ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員（荒井）今回御諮詢ノ日滿經濟共同委員会
設置ニ關スル協定締結ノ件ニ付不宣審査員ヲ
命ぜラレ六月二十七日委員会ヲ開キ國務大臣及
其關係官員ノ聲明ヲ聽取シ以テ之ガ查覈ヲ遂ゲタリ

抑々帝國ノ滿洲國ニ賦スル國策ノ基調トスル所
ハ義ニ昭和八年三月漢密ノ國際聯盟脫退ニ關ス
ル詔旨及昭和七年六月調印ノ日滿議定書ヲ以テ
宣言セラレタルガ如ク滿洲國ノ獨立ヲ確認每重
シ且之ヲシテ帝國ト不可分依存ノ關係ヲ持シテ
進歩發達セシムルニ在リ帝國政府其常ニ此ノ方
針ニ則リ適切ナル處置ヲ講ズルコトヲ念トシ日
滿兩國ノ連繫ヲ確保スル爲メ日滿議定書ニ於ケ
ル兩國共同シテ國家ノ防衛ニ當ルベキ旨ノ條規
ニ基キ事ニ關シテハ同議定書ニ依リ共同防衛
ニ必至ナル日本國軍ノ滿洲國內ニ永久駐屯ノ權
ヲ確立シタル外別ニ兩國間ニ軍事上ノ協定ヲ締
結シ又外交ニ關シテハ客守三月滿洲國帝制實施
ノ際兩國間ニ交換セル公文ニ依リ滿洲國ハ其ノ
外交其ノ他共同防衛上必至ナル事項ニ付必ズ豫
メ日本國ニ充分且隔意ナキ協議ヲ遂グベキコト
ヲ協定シタリ然ルニ亘る外交ト均シク兩國ノ連
繫ニ緊密重視ノ關係アル經濟ニ關シテハ兵ノ共
同指揮ノ方法ニ付未ダ何等制度トシテ確立セル
モノナク爲メニ滿洲國ノ經濟問題ニシテ帝國ノ
經濟ニ重大ノ關係アル事項ノ處理殊ニ滿洲ニ於
ケル重兵駐業ヲ目的トスル日滿合辦會社ノ監督
ニ關シテモ正式ニハ帝國政府ハ發言權ヲ有セズ
之ヲ滿洲國政府ノ指揮ニ一任スルノ外ナキ現狀

875A-6

ニ在リスクノ如キハ日滿兩國ノ不可分關係ヲ確
保スル所以ニ非ズ又兩國經濟上ノ依存關係ヲ鞏
固ナラシムル所以ニ非ザルコト明ニシテ兩國ノ
通繁ニ關係アル限り「軍事及外交ニ關スルト同
ジク經濟ニ關シテモ亦共同指辨ノ方法ヲ制度ノ
上ニ確定シ以テ正式ニ帝國ノ發言權ヲ存立セシ
ムルノ必要アリ帝國政府ハ此ノ必要ニ應ズル爲
メ日滿兩國間ニ一ノ共同機關ヲ設置スル旨ノ協
定ヲ締結スルヲ可ナリトシ在滿帝國使臣ヲシテ
滿洲國政府ト交渉セシメタルニ協議調ヒテ本件
取極ノ成案ヲ得ルニ至レリ」

本案ノ取極ハ「日滿經濟共同委員會設置ニ關ス
ル協定」ヲ主タルモノトシ之ニ添フルニ其ノ細
目ヲ定メタル「附屬書」及「日滿經濟共同委員
會設置ニ關スル協定ノ締結ニ付日本國及滿洲國
全體委員ガ一致シタル了解事項」ナル文書ヲ以
テス今逐次此等各部ノ要旨ヲ述ブレバ次ノ如シ

第一 協定

- (一) 滿洲國新京ニ日滿經濟共同委員會ヲ常設ス
長事項及日滿合辦特殊會社ノ業務ノ監督ニ
關スル重要事項ニ付日滿兩國政府ノ諮詢ニ
應シ意見ヲ答申スベキモノトシ兩國政府ハ

875A-7

此等ノ事項ニ付テハ本委員會ノ諮問ヲ經タル後
ニ非ザレバ之ヲ處理スルコトヲ得ザルモノトス
(二) 本委員會ハ必要ニ應シ日滿兩國經濟ノ合理的的融
合ニ關スル一切ノ事項ニ付兩國政府ニ建議スル
コトヲ得ルモノトス」

(四) 本委員會ノ組織及運用ニ付テハ附增^{尾録}ノ定ムル
所ニ依ル

(五) 本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施シ日漢兩文ヲ以
テ共ニ正文トシ其ノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ
日本文ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第二 附屬書

附屬書ハ前述ノ委員會ノ組織及運用ノ大綱ヲ定メ
タルモノニシテ(一) 本委員會ノ委員ハ八名トシ兩國
政府ニ於テ各其ノ半數ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報ス
ベク委員事故アルトキハ滿洲國駐劄日本帝國特命
全權大使ト滿洲國國務總理大臣トノ協議ニ依リ其
ノ代理者ヲ定メ又兩國政府ハ必要ニ應シ協議ノ上
各同數ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得ルモノトシ
(二) 議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選シヘスト謂フ(三) 本
委員會ノ庶務ヲ整理セシムル爲メ幹事若干名ヲ置キ
兩國政府各其ノ同數ヲ隨員中ヨリ任命スルモノト
シ(四) 本委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ議長

875A-7

此等ノ事項ニ付テハ本委員會ノ諸商ヲ經タル後
ニ非ザレバ之ヲ處理スルコトヲ得サルモノトス

- (三) 本委員會ハ必長ニ應ジ日滿兩國經濟ノ合理的融
合ニ圖スル一切ノ事項ニ付兩國政府ニ建議スル
コトヲ得ルモノトス
- (四) 本委員會ノ組織及運用ニ付テハ附增^{ヨリ}ノ定ムル
所ニ依ル
- (五) 本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施シ日滿兩文ヲ以
テ共ニ正文トシ其ノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ
日本文ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第二 附屬書

- 附屬書ハ前述ノ委員會ノ組織及運用ノ大綱ヲ定メ
タルモノニシテ (一) 本委員會ノ委員ハ八名トシ兩國
政府ニ於テ各其ノ半數ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報ス
ベク委員ニ故アルトキハ滿洲國駐劄日本帝國特命
全權大使ト滿洲國國務總理大臣トノ協議ニ依リ其
ノ代理者ヲ定メ又兩國政府ハ必長ニ應ジ協議ノ上
各同級ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得ルモノトシ
(二) 議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選シヘ毎回互選 (三) 本
委員會ノ議長ヲ監理セシムル爲メ幹事若干名ヲ置キ
兩國政府各其ノ同級ヲ隨員中ヨリ任命スルモノト
シ (四) 本委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ議長

ハ該項目トシテ諒決ニ加ハルノ外ニ可不回復ナル
 トキ之ヲ決スルノ権ヲハルモノトシ(ニ委員會ノ
 諸規則ハ兩國政府ノ承認ヲ經テ委員會之ヲ定
 ムルモノトスルノ諒項目ヲ揭ゲタリ

第三 了解事項

此ノ文書ハ前述ノ委員會ノ組織及權限ニ關シ更
 ニ具體的ノ取扱ヲ爲シタルモノニシテ(一)本委員
 會ノ常任委員ハ帝國側ハ山東省參謀長、在清大
 使館專任首席參軍官、山東局總長及政府ニ於テ
 等ニ任命スル者一名トシ清洲國側ハ外交部、工
 業部及財政部ノ各大臣並ニ國務院總務廳長トシ
 (二)本委員會ノ諒間事項中日清兩國經濟ノ運営ニ
 關スル重要事項トハ清洲國政府ノ權限ニ屬スル
 經濟問題ニシテ兩國經濟ノ運営ニ關係アル釐因
 入及山稅ニ關スル事項並ニ重其產業ノ開發及流
 倒、日滿合辦特種會社ノ設立ニ關スル法令ノ制
 定及改正、投資事ノ他兩國經濟ノ運営ニ關スル
 重要事項ヲ謂フモノトス而シテ兩國經濟ノ運営
 ニ關スル重要事項ト解スルモ日本政府ノ權限ニ
 屬スルモノハ此ノ委員會ニハ諒間セサルヲ以テ
 此ノ點ニ於テ清洲國ノミヲ拘束スル片方面的約定
 ト爲ルモノトス(三)同諒間事項中日清合辦特種會
 社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項トハ日清兩國
 經濟ノ運営ニ關係アル重要產業ヲ目的トシ兩國

ハ委員トシテ調査ニ加ハルノ外ニ可不回致ナル
トキ之ヲ決スルノ趣ヲスルモノトシ(ニ委員會ノ
該規則ハ兩國政府ノ承認ヲ經テ委員會之ヲ定
ムルモノトスルノ論項ヲ掲ゲタリ)

第三 了解事項

此ノ文書ハ前述ノ委員會ノ權限及権限ニシテ
ニ具體的ノ取扱ヲ爲シタルモノニシテ(一)本委員
會ノ常任委員ハ帝國側ハ山東省參謀長、在清大
使館專任首席參謀官、山東局總長及政府ニ於テ
特ニ任命スル者一名トシ清洲國側ハ外交部、工
業部及財政部ノ各大臣並ニ國務院總務課長トシ
(二)本委員會ノ諭問事項中日清兩國經濟ノ運営ニ
關スル重要事項トハ清洲國政府ノ權限ニ屬スル
經濟問題ニシテ兩國經濟ノ運営ニ關係アル輸出
入及關稅ニ關スル事項並ニ重其產業ノ開發及統
制、日清合辦特殊社ノ設立ニ關スル法令ノ創
定及改正、投資其ノ他兩國經濟ノ運営ニ關スル
重要事項ヲ謂フモノトス而シテ兩國經濟ノ運営
ニ關スル重要事項ト解スルモ日本政府ノ權限ニ
屬スルモノハ此ノ委員會ニハ諭問セザルヲ以テ
此ノ點ニ於テ清洲國ノミヲ拘束スル片方面的約定
ト爲ルモノトス(三)同諭問事項中日清合辦特殊
社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項トハ日清兩國
經濟ノ運営ニ關係アル重要產業ヲ目的トシ兩國

875A-9

ノ一方ノ法律ニ依リ成立シ其ノ資本金ノ半額以上ガ地方ノ國ノ政府、臣民又ハ法人ノ輸出ニ係ル會社ノ定款ノ重長ナル變更、利益金處分又ハ合併及解散ノ決議ノ認可ニ關スル事項ヲ關フモノトスル旨ヲ掲ゲタリ而シテ現在ニ於テハ日本ノ法ニ依ル合辦會社ニシテ滿洲國側ノ出資半額以上ヲ占ムルモノナシト謂フヲ以テ實際上本取極ハ此ノ點ニ於テモ滿洲國側ノミ拘束スルモノナリ此ノ如ク本文書ニハ滿洲國ノ協議ニ依リ之ヲ片務的條項アルガ故ニ兩國ノ協議ニ依リ之ヲ秘密ニ付スルコトトセル旨當局ハ聲明シタリル按ズルニ本件ノ取極ハ義ニ締結セラレタル日清議定書ノ趣旨ニ基キ日滿兩國ノ經濟上ノ依存關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシムル目的ヲ以テ兩國間ノ重要ナル經濟問題ニシ充分且緊密ニ共同ノ實ヲ擧ゲテ兩國經濟ノ合理的融合ヲ實現スル爲メ常設シ以テ兩國ノ經濟ニシ聯アル一定ノ重長等項ヲ處理スルニ當リ豫メ該委員會ニ諮詢シ其ノ意見ヲ俟チテ之ヲ措辨セムトスルモノニシテ斯クノ如キ機關ヲ設置スルハ日滿兩國ノ特殊關係ニ考ヘ帝國ノ對滿國策ヲ遂行スルニ補スル所アルベキガ故ニ本件取極ハ其ノ大體ノ趣旨ニ於テ之ヲ可トスペク其ノ各部ノ條項モ亦特ニ非議

875 A-10

スペキ廉フ認メズ唯斯カル矣殊ノ施設ハニノ是
用宣キヲ得ルニ非ザレバ所期ノ效果ヲ齎スコト
能ハザルハ言ヲ俟タザル所ナルガ故ニ本件之處
ノ實施ニ~~事~~ヨリ全局ニ於テ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ
其ノ措置ヲ極ルコトナク以テ能ク充分ノ成績ヲ
収ムルニ至ラムコトヲ切望セザルヲ得ズ仍テ審
査委員會ニ於テハ本件ハ此ノ議之ヲ可決セラレ
然ルベキ旨右ノ希望ト俱ニ全行一一致^ト以テ該決
シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

三十三番（元田）不協定ニ依レバ委員会諸間等項
中日聯合辦事處合社ニシテ資云金ノ半額以上方
他方ノ提出ニ係ルモノノ一完事項ニ付テハ必ス
諸間セザルベカラザルコトトセルモ斯ノ如ク日
清兩國ノ出資額ヲ同様下爲スコトハ果シテ妥當
ナリヤ

又委員會ノ組織ヲ見ルニ兩國ヨリ各口名宛ノ委
員ヲ出シ議長ハ右委員中ヨリ之ヲ互選スルモノ
トス而シテ議長ハ表決權ノ外採決權ヲ有スルモノ
ノト爲スカ故ニ其ノ權限ハ非常ニ強大ナルモノ
ナリ而勅使在任期ニ付テハ何無ノ規定ナシ審査報
告ニ依レバ議長ハ會議ニ之ヲ選定ストノコト
ナルモ左様ノコトハ頃況ヲ異スペク明規無ケレ
バ疑義ヲ生スルノ慶アリト考フ斯ルニ項ハ本物

875A-11

定中ニ之ヲ明記スルヲ相當ト考フルモ議事規則
中ニ之ヲ定ムルモ亦不可ナカルベシ兎ニ角本協
定ノ規定ノミニテハ委員會ノ諮問事項ハ結局議
長ノ專決スル所ト爲ルノ處アリ此ノ點ノ條規充
分ナラズト考ヘラルガ之ニ對スル當局ノ所見
如何

八番（廣田）元田顧問官ノ御質問ハ兩國ヨリ各四
名宛ノ委員ヲ出シテ委員會ヲ開クヲ以テ萬一議
事ガ議長ノ採決権ニ依テ決定セラル場合ニ於テ
ハ日本側ニ不利益ヲ生ズルコトナキヤトノ疑ナ
リト解ス併シ滿洲國側ヨリ出ス四人ノ委員ノ内
三名ハ大臣ニシテ他ノ一名ハ總務廳長ナリ此ノ總
務廳長ハ日本人ニシテ將來ニ於テモ亦然リト信
ズ而シテ同廳長ハ一面ニ於テハ滿洲國ノ官吏ナ
レドモ他面ニ於テハ滿洲國指導ノ任ニ當レル中
心機關ナリ故ニ委員會ニ於テ若シ日滿兩國ノ意
見ノ對立アル場合ニ於テモ日本側ノ不利益ト爲
ルガ如キコトハ殆ド之ヲ相像スルコトヲ得ズ
議長ハ場合ニ依リ自ラ最後ノ決ヲ採ルコトアル
ベキモ其ノ地位ハ之ヲ常定ノモノト爲サザルガ
反テ適當ナラズヤト思惟シ諮問事項ノ如何ニ依
ドモ將來議事規則ヲ定ムル場合ニ於テハ尙此ノ
點ニ關シ充分ニ考慮セザルベカラズト考ヘ居レ

875A-12

要旨元テ此ノ要旨之表面形式六日清賀等左ルモ實ニ於テ
ハ相異ルニ由リ文書ノ解釋上多少ノ困難ノ點ア
ラムモ實際上右ノ如キ解釋ノ下ニ之ヲ適用シタ
シト考フ

三十三番（元日）本員ハ今日日清國ニ條約上ノ權
利ヲ强行セサルベカラザルガ如キコトアルベシ
トヘ恩愾セズ然レドモ今日兵ノ心配ナキヲ理由
トシテ協定ヲ結バサルハ細心ナラズ協定ヲ結ブ
トセバ國家百年ノ大計上萬端算ナキ規定ヲ體ク
ルノ必至アリト考フ審査報告書ニ本件ノ取極ノ
實施ニ關リテハ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ其ノ措置
ヲ謬ルコトナク云々ト謂ヘルハ種々ノ意味ヲ包
含スルモノト考フルヲ以テ當局ニ於テハ此ノ點
ニ付深ク考慮セラレムコトヲ希望ス

三十六番（坂本）只今元田頼國召ヨリ御質問アリ
タル事柄ハ本員モ考ヘタル事ナリ外務大臣ノ御
答辯ニ依レバ總理閣ニハ日本人ガ任ゼラレ后
ルヲ以テ何レ日本人ノ心ヲ以テ仕事ヲ爲スペク
従テ日本ニ不利益ナルコトナカルベシトノコト
ナルモ同官ガ日清兩國ノ利益相反スル場合ニ於
テ日本側ノ利益ヲ擴張スルトキハ清洲國民ノ反
感ヲ買フニ到ルベク其ノ已ニ清洲國ノ官吏タル
以上日本ノ爲メ不利ナルコトヲ爲サザルベシト
考フルコトハ大ニ考慮ヲ甚スベキニ非ズヤ此ノ

875A-12

委員会ルニ此ノ委員會ヲ表面形式ヘ日本對等ナルモ實質ニ於テ
ハ相異ルニ由リ文書ノ解釋上多少ノ困難ノ點ア
ラムモ實際上右ノ如キ解釋ノ下ニ之ヲ通用シタ
シト考フ

三十三番（元田）本員ハ今日日滿洲ニ條約上ノ權
利ヲ强行セザルベカラザルガ如キコトアルベシ
トハ恩懐セズ然レドモ今日其ノ心配ナキヲ理由
トシテ協定ヲ結バザルハ細心ナラズ協定ヲ結ブ
トセバ國家百年ノ大計上萬遺算ナキ規定ヲ設ク
ルノ必婾アリト考フ審査報告書ニ本件ノ取極ノ
實施ニ磨ケリテハ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ其ノ措置
ヲ謬ルコトナク云々ト謂ヘルハ種々ノ意味ヲ包
含スルモノト考フルヲ以テ當局ニ於テハ此ノ點
ニ付深ク考慮セラレムコトヲ希望ス

三十六番（坂本）只今元田顧問官ヨリ御質問アリ
タル事柄ハ本員モ考ヘタル事ナリ外務大臣ノ御
答辯ニ依レバ總務廳長ニハ日本人在ゼラレ居
ルヲ以テ何レ日本人ノ心ヲ以テ仕事ヲ爲スペク
ナルモ同官ガ日滿兩國ノ利益相反スル場合ニ於
テ日本側ノ利益ヲ擁護スルトキハ滿洲國民ノ反
感ヲ買フニ到ルベク其ノ已ニ滿洲國ノ官吏タル
以上日本ノ爲メ不利ナルコトヲ爲サザルベシト
考フルコトハ大ニ考慮ヲ要スペキニ非ズヤ此ノ

875A-13

點ニ日本ハ營局ノ御意見如何又斯ル委員會ノ議長ヲ會議毎ニ選出スル制度ハ我國ニハ事例ナカルベシト等フル實例所ニカ斯ル先例アリヤ承リタシ

八音（廣田）只今ノ御質問ハ日本人ナリトスルモ滿洲國ノ官吏タル以上ハ滿洲國ノ爲メ忠良ナル役人トシテ盡サザルベカラザルニ由リ委員會ニ於テ日本ノ利益ノ爲メニ謀決スルコト能ハザル管ナラズヤトノ御主旨ナリト解セリ總務局長ハ日系官吏ノ権元帥ニシテ滿洲國指導ノ爲メニ招聘セラレ居ルモノナリ即テ滿洲國ノ官吏タルト同時ニ日本ヨリ派遣セラレタル指導機關ナルヲ以テ同艦長ヘ職務トシテ此ノ二重ノ使命ヲ達成セザルベカラズ日滿兩國ノ行動ニ予盾ナキ様指導スルコトガ其ノ本來ノ任務ナリ委員會組織ニ於テ滿洲國側ノ委員が若シ得ニ惡意ヲ以テ日本ノ不利全ヲ圖ルコトアルトキハ同艦長ハ兩國ノ利益ニ付十分ナル考慮ヲ拂ヒテ之ニ着慮スルコトト爲ルベシト等フ同艦長ハ斯ル懸念ナキ様滿洲國ヲ指導スルコトヲ任務トスルモノナリ

委員（栗山）議長ヲ委員中ヨリ互選スル立法例アリヤドノコトナルガ國際聯盟理事会ノ如キハ大臣ニ於テ議長ハ議員ノ都度委員中ヨリ互選スル例ナリ而シテ新議長ノ選定迄ハ前議長ガ假議長

875A-14

トシテ議長ノ職ヲ行フ例ナリ本協定ニ依ル經濟共同委員會ノ議長ニ付テモ大體同様ナルガ近ク制定セラルベキ議事規則ニ於テハ此ノ點ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケタキ考ナリ此ノ委員會ノ委員ハ形式上日滿平等ナルガ故ニ斯ノ如ク互選ノ形式ヲ採リタルモノナリ

三十六番（坂本）不委員會ノ場合ハ國際聯盟ノ場合トハ異レリト考フルモ今ハ之ヲ述ベザルベシ總務處長ハ日系官吏中滿洲國ヲ指導スペキ相要ノ地位ニ在ルモノナレバ間違ナシト考フトノ事ナルモ永キ將來ニ於テハ日滿關係ノ現狀ガ全ク變化ナシトハ斷ズベカラザルニ由リ當局者ハ今後最善ノ努力ヲ以テ大臣ノ答辯ヲ裏切ルガ如キコトナカラムコトヲ希望スルモノナリ

議長（一木）別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

（全員起立）

議長（一木）全會一致可決セラレタリ

○

議長（一木）次ニ

遞信省官制中改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査報告ヲ爲サシム

875A-18

第四條

委員會ハ必要ニ處シ日本兩國經濟ノ合理的融合ニ
圖スル一切ノ事項ニ付日本兩國政府ニ取組スルコ
トヲ爲ス

第五條

委員會ノ組織及運用ニ付テハ不協定附屬ノ定ム
ル所ニ依ル

第六條

本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ
本協定ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢
文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文
ニ依リ之ヲ決ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署
名調印セリ

昭和十年一月 日即チ康德二年一月 日新京ニ於テ本誓二三ヲ作
成ス

875A-19

附 屬 書

- 一 委員會ノ委員ハ八名トシ日清兩國政府ハ各四名ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報スペシ委員ニ故アルトキハ其ノ代理者ニ付清洲國駐劄日本帝國特命全權大使清洲國國務總理大臣相互協議ノ上之ヲ出席セシムルコトヲ得代理者ハ委員ノ名ニ於テ其ノ職ヲ行フ
右ノ外日本兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上各同様ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得
- 二 議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選ス
- 三 委員會ニ幹事若干名ヲ置ク幹事ハ庶務ヲ整理ス
- 四 委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同意ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル議長ハ委員トシテ議決ニ加ハルコトヲ妨ゲズ
- 五 委員會ハ日清兩國政府ノ承認ヲ經テ其ノ議事規則ヲ定ム

875A-20

關於設置滿日經濟共同委員會協定

附 屬 書

關於設置滿日經濟共同委員會協定

茲因滿洲國政府及日本國政府希望為使滿洲國及吾
本國所現存之滿日兩國經濟上之依存關係永遠鞏固實現滿日
兩國經濟之合理的融合

又因兩國政府認為依據大同元年九月十五日即昭和
七年九月十五日蓋印之滿洲國日本國間議定書之主
旨關於滿日兩國互相同意經濟問題亦滿日兩國有
收充分且緊密共同之實效之必要

兩國政府決定設置滿日經濟共同委員會茲協定如左

第一條

滿日經濟共同委員會設置於滿洲國新京

第二條

委員會關於滿日兩國經濟之聯繫上重要事項及滿日
合營等公司業務之監督上重要事項須應滿日兩國
政府諮詢向兩國政府具陳其意見

第三條

滿日兩國政府關於前條各項預諮詢委員會俟有其意
見之具陳後辦理之

第四條

委員會有必要時關於滿日兩國經濟之合理的融合上
一切事項向滿日兩國政府建議

關於設置滿日經濟共同委員會協定

附 屬 曆

關於設置滿日經濟共同委員會協定

茲因滿洲國政府及日本國政府希望為使滿洲國及吾
等國現存之滿日兩國經濟上之依存關係永遠鞏固而現滿日
兩國經濟之合理的融合

又因兩國政府認為依據大同元年九月十五日即昭和
七年九月十五日蓋印之滿洲國日本國間議定書之主
旨關於滿日兩國互相間重要經濟問題亦滿日兩國有
收充分且緊密共同之實效之必要

兩國政府決定設置滿日經濟共同委員會茲協定如左

第一條

滿日經濟共同委員會設置於滿洲國新京

第二條

委員會關於滿日兩國經濟之聯繫上重要事項及滿日
合辦特種公司業務之監督上重要事項須應滿日兩國
政府諮詢向兩國政府具陳其意見

第三條

滿日兩國政府關於前條事項預諮詢委員會俟有其意
見之具陳後辦理之

第四條

委員會有必具時關於滿日兩國經濟之合理的融合上
一切事項向滿日兩國政府建議

875A-21

第五條

關於委員會之組織及其運用依照本協定附屬章所定
辦理

第六條

本協定自簽字之日起實施之

本協定以英文及日本文為正文原文與日本文原文之
兩種有解釋不同之處應以日本文原文為準

為此記名奉本國政府之正當委任將本協定簽字蓋印
以昭信守

康德二年

月

日

昭和十年

月

日

於新京達成本協定二份

875A-22

附 勘 計

- 一 委員會委員以八名為定數滿日兩國政府應各任命四名並互相知照委員會專設時由於其代理人得經滿洲國國務總理大臣及駐劄滿洲國日本帝國特命全權大使互相協議後派代理人參加該代理人以委員之名義行其職務
此外滿日兩國政府有必要時得徑協議後各任命同數之臨時委員
- 二 議事由委員互選之
- 三 委員會設幹事若干名幹事逕理庶務
幹事由滿日兩國政府於隨員中各任命同數
- 四 委員會議事以過半數決之可否同意時由幹長決
之議員不妨以委資格加入議決
- 五 委員會經濟滿日兩國政府承認定其規則

875-A-23

勅令 第 五 號

遞信省官事中主ノ改正ス

第二條中「登記官ハ十七人」ヲ「登記官ハ十八人」
ニ改ム

第七條中「遞信省郵務官事任十六人」ヲ「遞信省
郵務官事任十七人」ニ改ム。

第七條ノ二中「流空官事任十一人」ヲ「流空官事任
十二人」ニ改ム

第八條中「技師六十七人」ヲ「技師六十九人」
ニ改ム

第九條中「馬ハ事任三百十八人」ヲ「馬ハ事任三
百四十五人」ニ改ム

第十條中「技手百二十九人」ヲ「技手百四十四人」
ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

8754-241

證 明 書

「ワシントン文書局 第 12
圖書檢索部 第 875 頁

真偽及び公正ニ關スル證明

余、被保シユウツイハ余方下記ノ資格ニ於テ、
即チ枢密院議長職にトシテ、日本政府ト公的關係
ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ余方茲ニ
添附セラレタル、　　頁ヨリ成ル、千九百三十三
五年ノ昭和十年ノ七月三日前、下記尾名、即チ
日滿鐵道共同委員會議長ニ關スル協定締結ノ件ノ
文書ノ保管ニ任ジ居ルコトヲ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添附ノ記載及び文書方日本政府ノ公文
書ナルコト、並ニ右ガ下記名稱ノ省又ハ部局ノ公
式名稱及ビ毎ノ一部ナルコトヲ證明ス。〔若シア
ラバ番號又ハ引用、其他公式名稱又ハ様ニ於ケ
ル該文書ノ成類所在ノ公式名稱ヲモ特記スペシ〕

宮城内閣密院

千九百四十六年／昭和二十一年／本七月十日

875A-25

東京ニ於テ署名

當該官吏名前 神保シユウゾウ(エミロ)

右ノ者ノ公的資格 幕密院議長秘書

證人 長曾我部キチ(スエイチ)

公式入手ニ關スル證明

余、エドワード。ビン。モナガンハ、余ガ聯合國最高指揮官總司令部ニ關係アルモノナルコト、並ニ上記題名ノ文書ハ余方公海上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス。

千九百四十六年／昭和二十一年／本七月十日

東京ニ於テ署名

氏名 江 エドワード。ビン。モナガン

右ノ者ノ公的資格 國[示]松原總領事官

證人 ウカリヤム。シル。ブラウト